



はじめに

大学を卒業してすぐ、国語の教師として中学校に赴任しました。

1年生四クラスの国語を担当することになりました。どのように授業をすればよいのか分かりませんでした。教科書会社が発行している指導書を事前に読んで、その通りに授業をしました。

一年経つと、指導書を見なくても授業ができるようになりました。それは、授業の腕が上がったからではありません。自分の授業の拙さが気にならなくなったからです。悪い意味での余裕が出てきたのです。時々読んだ教育誌の実践をたまにやって、それで悦に入っていました。

三年目に、若い国語教師が赴任してきました。彼がある日、私に言いました。

「どんなふうに授業を進めたらいいかが分からないのです。どうしたら生徒が発言をするのかが分からないのです。それで、全部自分で説明をしまっています。どうしたらいいのでしょうか。」

質問されても、明確に答えることはできませんでした。自分がやっている授業も似たようなものだったからです。

五年目に、一冊の本に出会いました。『齋藤喜博を追って』（向山洋一著、昌平社）。「春」の授業実践に度肝を抜かれました。小学校6年生の国語の授業が、私の担当する中学校3年生の国語の授業を、発言数でも発言内容でもはるかに超えていたのです。

どうすればこのような発問をつくることができるのか。その時から、私は発問について強く意識するようにな

りました。

その後、教育技術法則化運動を通して野口芳宏先生と出会い、発問についてご教示をいただくと同時に、自分でも発問づくりについて考え始めたのです。

最初は、すぐれた発問でそのまま授業をすることから始めました。やがて、すぐれた発問を真似て、自分でも発問をつくってみました。これは、設定がうまくはまると授業が盛り上がりました。しかし、自分で一から発問をつくるのは相変わらず難しいものでした。

やがて、発問には「内容」と「形式」の二面があり、どちらも重要だという、至極当たり前のことに深く思い至りました。教材を十分に研究した上で、形式を工夫して発問をつくらなければ、よい発問はできないということです。

教材を十分に研究するには「素材研究」が有効で、これが発問をつくる上で絶対に必要です。発問の形式の工夫は、児童生徒の意欲を高め思考力を養うことにつながります。

本書では主として形式面を述べていますが、形式だけを工夫しても内容が伴わなければ、価値のある発問にはなりません。十分な教材の研究がいつでも基本の部分に必要なということを、頭に置いてご活用いただければ幸いです。

二〇二一年四月

山中伸之

目次

第1章

よい発問とはどんな発問か確かめよう



01	考えるべきことが明確であること	14
02	子どものできそう感があること	16
03	深く考えさせること	18
04	答えが多様であること	20
05	子どもが正誤を判断できること	22
06	分かりやすい(短くズバリな)内容にすること	24
07	新たに分かる、気付かせること	26
08	間違いに気付かせる、思い込みをゆさぶること	28
09	読みが深まる、統合されること	30
10	読みの技能が向上すること	32
11	他の教材に応用できること	34

COMMENT 1

子どもはどんな発問でも答えようとする

36

第2章

よい発問のつくり方をマスターしよう



01	基本の方程式 読みの理想状態―子どもの現状	38
02	素材研究で読みの理想状態をつかむ	40
03	読み過(こ)し、読み誤り、読み足らずをさがす	42
04	発問はつくり加えずに加工する	44
05	選択肢を示す	46
06	○か×かと問う	48
07	限定して問う	50
08	数を問う	52
09	言葉について問う	54
10	確認のために問う	56

COMMENT 2

子どもたちに発問をつくらせる

58

発問をくらべてどちらがよいか考えよう



おおきなかぶ

繰り返し効果に気付かせる発問

- A…「おおきな おおきな かぶになれ。」は2回言わないとダメですか。
- B…なぜ「あまい あまい」「おおきな おおきな」と2回繰り返し言っているのでしょうか。

62

価値に気付かせる発問

- A…かぶを抜くお手伝いは、ねずみが最初ではダメですか。
- B…小さいねずみの力は、いりませんか、いりませんか。

64

音読を通して読みを深めさせる発問

- A…6回ある「うんとこしょ、どっこいしょ」はすべて同じ読み方でいいですか。
- B…6回出てくる「うんとこしょ、どっこいしょ。」はどのように読むといいでしょうか。

66

語順による効果を考えさせる発問

- A…「ねこを ねずみが ひっぱって。」と「ねずみがねこを ひっぱって。」では、イメージは同じですか。違いますか。
- B…ねこをねずみがひっぱっている様子を絵にするかどうか。描いてみましょう。

68

登場人物の心情を想像させる発問

- A…おじさんがいちばん「ありがとう」を言いたいのは誰ですか。
- B…登場人物の中で、皆さんは誰にいちばん「ありがとう」と言いたいですか。

70

広い視野で読み取らせる発問

- A…なぜ大きなかぶを抜くことができたのでしょうか。
- B…おじさんは、かぶが抜けて何と言ったと思いますか。

72

たんぼぼの ちえ

順序を表す言葉を基にして考えさせる発問

- A…第二段落の順序を表す言葉は何でしょうか。
- B…たんぼぼの花のじくが地面にたおれるのは、春・夏・秋・冬のいつですか。

76

文章の中心内容を読み取らせる発問

- A…第二段落に「たんぼぼのちえ」はいくつ書かれていますか。
- B…二、三日たった時の「たんぼぼのちえ」を文章の中から見つけましょう。

78

文章の中心内容を読み取らせる発問

- A…「このころ」になった時、花はどんな「たんぼぼのちえ」を使うのでしょうか。
- B…この段落、ふしぎなことが起こります。どんなことでしょうか。

82

筆者の主張を読み取らせる発問

- A…何のために、たんぼぼのちえはあるのですか。
- B…何のために、たんぼぼはちえをはたらかせるのでしょうか。

84

文章の構造に気付かせる発問

- A…たんぼぼがたおれる理由は何でしょうか。
- B…たんぼぼがたおれる理由は、たねに栄養を送るためですか、たねを太らせるためですか。

80

文章の構成に着目させる発問

- A…たんぼぼのちえを紹介する順番は、変えてもいいですか。
- B…最初のたんぼぼのちえと最後のたんぼぼのちえを反対にしてもいいですか。

86



すがたをかえる大豆

言葉の意味を深く考えさせる発問 ————— 90

- Ⓐ …「調理」と「料理」の違いは何ですか。
- Ⓑ …「調理」と「料理」は同じですか、違いますか。

筆者の考えと理由の関係を読み取る発問 ————— 92

- Ⓐ …毎日のように大豆を口にしていないのに気付かないのはなぜですか。
- Ⓑ …「意外と知られていません。」の後に言葉を入れるとすると、何という言葉が入りますか。

論理的な関係理由を読み取る発問 ————— 94

- Ⓐ …大豆を加工するのはなぜですか。理由を4つ書きなさい。
- Ⓑ …大豆がいろいろな食品にすがたをかえていることが多いのはなぜですか。4つ書きましょう。

具体例を細かく読み取らせる発問 ————— 96

- Ⓐ …大豆をおいしく食べる工夫と変容後の姿を表にまとめましょう。
- Ⓑ …おいしく食べる工夫の中で、二番目に時間がかかるものはどれですか。また、一番、時間がかからないものはどれですか。



文章の構成を読み取る発問 ————— 98

- Ⓐ …結論が書かれている段落は、何番目ですか。
- Ⓑ …「はじめ」「なか」「おわり」に分けると、どこで分けられますか。

筆者の主張を読み取る発問 ————— 100

- Ⓐ …最後の段落で、筆者の考えがよく表れているのはどの文ですか。
- Ⓑ …文章の内容を、「大豆・加工・ちえ」という言葉を使って、30字以内でまとめるとどうなりますか。



ごんぎつね

登場人物による見方の違いを確かめる発問 ————— 104

- Ⓐ …ごんはどんないたずらをしましたか。
- Ⓑ …ごんのしたことを、村の人たちはいたずらだと思っていたでしょうか。

細部にこだわって読ませる発問 ————— 106

- Ⓐ …「外へも出られない」と「外に出られない」との違いは何ですか。
- Ⓑ …穴は大きいですか、小さいですか。

登場人物のようすから場面の情景を読み取らせる発問 ————— 108

- Ⓐ …ごんは二人の近くをついていきましたか、それとも距離をとってついていきましたか。
- Ⓑ …ごんはびくっとして、小さくなって立ち止まりました。「この時のごんの心の声を書きましょう。」

クライマックスの心情を読み取らせる発問 ————— 110

- Ⓐ …兵十は、うら口から中へ入ったごんを見て、どう思っ、何をしましたか。
- Ⓑ …「ようし。」の後の兵十の心の声を書きましょう。



気持ちの変化を読み取る発問 ————— 112

- Ⓐ …ごんが栗をくれたことに、兵十が気付いたのは何ページ何行目ですか。
- Ⓑ …ごんに対する兵十の気持ちが変わったのは、何ページ何行目ですか。

登場人物の心情を読み取る発問 ————— 114

- Ⓐ …最後の場面、ごんは幸せでしょうか、それとも不幸でしょうか。
- Ⓑ …最後の場面、ごんは嬉しかったと思いますか、悲しかったと思いますか。

大造じいさんとガン

登場人物同士の関係を読み取らせる発問

118

- A…一羽のガンを生け捕る前、大造じいさんは、残雪にプラスの印象をもっていますか。マイナスの印象をもっていますか。
- B…一羽のガンを生け捕る前、大造じいさんは残雪のことをどう思っていましたか。

情景描写から心情を読み取らせる発問

120

- A…『秋の日は、美しくかがやいていました。』から読み取れる大造じいさんの気持ちは何ですか。①秋の太陽はきれいだな。②昨日よりもたくさん捕まえるぞ。③今度もうまくいくだろう。
- B…なぜ、大造じいさんには、『秋の日は、美しくかがやいて』いるように見えていたのでしょうか。

根拠を基に登場人物の心情を読み取る発問

122

- A…『思わず感嘆の声をもらしてしまいました。』の、感嘆はどちらの意味ですか。①感心して、ほめる意味。②なげき悲しむ意味。
- B…『思わず感嘆の声をもらした』たのは、どちらに對してですか。①残雪の考えたちえに對して。②残雪のリーダー性に對して。

時計の時間と心の時間

筆者の主張を読み取らせる発問

132

- A…筆者の言いたいことはどちらの文ですか。①そんな身近な存在である「時間」ですが。②そして私は、「心の時間」に目を向けることが
- B…第一段落の中で、筆者の主張が表れている文はどれですか。

事例・具体例について考えさせる発問

134

- A…どのような具体例があげられていますか。箇条書きでまとめましょう。
- B…第三から第六段落は「事例」といいます。これらの事例にはどんな効果がありますか。

文章の型と筆者の主張との関係を考えさせる発問

136

- A…この文章の型は次のうちのどれですか。①頭括型。②尾括型。③総括型。
- B…筆者の主張は、文章のどの部分に表れていますか。

具体例の特性を考えさせる発問

138

- A…「心の時間」には、どんな特性がありますか。2つ書きましょう。

表現の違いから心情の変化を読み取らせる発問

124

- A…第一場面の「ううむ。」と、第二場面の「うん。」では、どちらの気持ちが強いですか。
- B…第一場面の「ううむ。」と、第二場面の「うん。」では、どちらを強く読んだらいいでしょうか。

登場人物の内面の葛藤を読み取らせる発問

126

- A…「再びじゅうを下ろしてしまいました。」とありますが、「下ろしました。」ではなく、「下ろしてしまいました。」と表現したのはなぜでしょうか。
- B…「が、なんと思っただか」とありますが、なぜ大造じいさんは銃を下ろしてしまったのでしょうか。

特定の表現の登場人物の心情を読み取らせる発問

128

- A…「大造じいさんは、強く心を打たれて」とあります。残雪の何に最も強く心を打たれたのですか。
- B…「大造じいさんは、強く心を打たれて」とありますが、大造じいさんはどうしてこのように感じたのでしょうか。それが分かる文を3つ選びなさい。

表現効果について考えさせる発問

140

- A…「〜か」と読者に呼びかけている文が見られます。それにはどんな効果がありますか。
- B…「一日の時間帯によっても、『心の時間』の進み方は変わります。」を、「心の時間」の進み方は、一日の時間帯によっても変わります。」に変えてもいいですか。

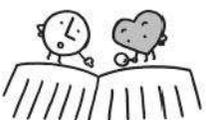
筆者の考えに対する意見を書かせる発問

142

- A…筆者の主張に對して、皆さんはどう考えますか。ノートにまとめましょう。
- B…皆さんは「時計の時間」と「心の時間」の、どちらが大事だと考えますか。また、その理由はなぜですか。

「授業興奮」を起こさせる

144





語順による効果を 考えさせる発問

光村図書の教科書では、「くをひっぱって」という表現で統一されています。通常の文なら「くがくをひっぱって」と、主語が先に来ます。それをわざわざ「くをく」という語順にしています。

A

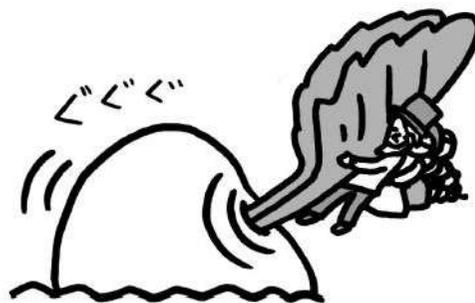
発問

「ねこを ねずみが ひっぱって。」と
「ねずみが ねこを ひっぱって。」では、
イメージは同じですか。違いますか。

B

発問

ねこをねずみがひっぱっている様子を
絵にするとどんな絵になりますか。
描いてみましょう。



ヒント

表現の違いがはっきりするのはどの視点か。

答え



A 「ねこを ねずみが ひっぱって。」と
「ねずみが ねこを ひっぱって。」では、
イメージは同じですか。違いますか。

解説

「語順」という教科内容

Aの発問は、「語順」による表現効果の違いを問う発問です。これは「おおきな かぶ」の教材内容でもありますが、「語順」という国語科の教科内容でもあります。第1章10節や第1章11節で紹介した教科内容を教えるという視点はいつも持っておいた方がよいのです。

絵を描かせるのは低学年の授業ではよくある活動です。しかし、ただ絵を描かせるだけでは学びにはつながりません。



POINT

形象（姿・形）を想像させることは大切な指導です。



論理的な関係理由を 読み取らせる発問

この教材のメインテーマである「大豆がすがたをかえる」理由は4つあります。その部分を読み取らせる時、ちよつとした工夫をすると、学習が深まります。

A

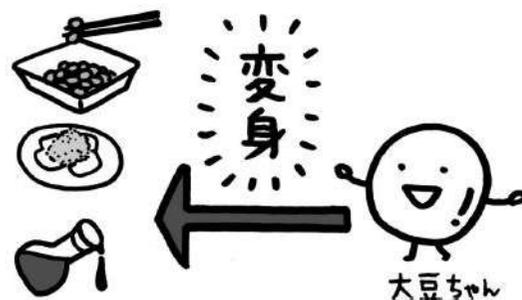
発問

大豆を加工するのはなぜですか。
理由を4つ書きなさい。

B

発問

大豆がいろいろな食品にすがたをかえている
ことが多いのはなぜですか。
4つ書きましょう。



ヒント 発問の言葉に着目。

答え



A 大豆を加工するのはなぜですか。
理由を4つ書きなさい。

解説

難しい言葉もあえて使う

発問Aも発問Bも同じことを問うています。

文中で「いろいろな食品にすがたをかえている」と表現していることを、発問Bではそのまま使っています。

これに対して発問Aでは、その部分を「加工」と言い換えています。言い換えることでまどう子もいるかもしれませんが、難しい言葉をあえて使うことも、国語の授業では必要なことです。



POINT

言い換えをする場合は、その言葉の意味を事前に
確かめておく必要があります。



登場人物の心情を 読み取らせる発問

「ごんぎつね」の印象的な最後の場面です。「兵十は、火なわじゅうをばたりと、取り落としました。青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました。」という一節をふまえ、どう考えさせたいでしょうか。

A

発問

最後の場面、ごんは幸せでしょうか、それとも不幸でしょうか。



B

発問

最後の場面、ごんは嬉しかったと思いますが、悲しかったと思いますか。



ヒント 抽象の度合いを学年に合わせる。

答え



B 最後の場面、ごんは嬉しかったと思いますが、悲しかったと思いますか。

解説

抽象度が高すぎてもよくない

「幸せか不幸か」という選択肢と「嬉しいか悲しいか」という選択肢では、前者の方が抽象度が高くなっています。それが一口に言って悪いかどうかは難しいところです。しかし、4年生のような小さい子どもの場合、抽象度が高くなればなるほど、教材文との結びつきをさがしにくくなり、その結果、自分の思い込みだけで答えてしまいがちです。程度の差はありますが、あまり抽象度を上げない方がよいでしょう。



POINT

6年生になれば、ある程度抽象度の高い発問も可能です。